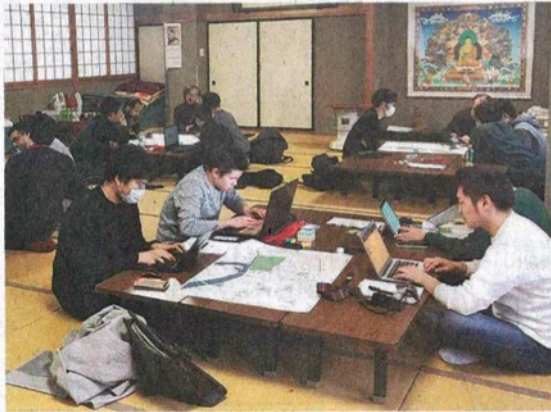


## 宿場町生かした まちづくり考察

豊橋技科大生と東大生ら



地図を広げながらかつての宿場町について考える学生ら＝豊橋市大手町の西光寺で（豊橋まちなか会議提供）

産学連携で豊橋市のまちづくりの未来を考えようと、「東海道筋における宿場町文化の再生ワークショップ」（豊橋まちなか会議

主催）が十四～十六日、豊橋市大手町の西光寺などであった。東京大と豊橋技術科学大の学生や両大学の留学生計二十一人が参加し

た。

ワークショップでは、「空き家の利用方法」「豊川の河川周辺を魅力的にするには」などをテーマに四班に分かれ、かつての宿場町とその周辺を見学。その後、町の課題とその解決策を探った。

十六日に西光寺であったプレゼンテーションでは、学生が実際に歩きながら書き込んだ地図などを交え、「歴史を巡る散策ルートをつくるだけでなく、文化を体験できるルートを」「豊川周辺の農業地帯をもっと

目立たせたい」といった案を出した。

参加したフランス出身の東京大研究生ムボック・ガエルさん（三巴）は「いまの東海道はあまりエネルギーが感じられないので、もっとダイナミックかつクリエイティブな場所になるよう考えた」と話した。

豊橋まちなか会議は二〇一八年に発足。豊橋駅前の再開発事業に合わせ、民間主導でまちづくりを進めようと住民や地元事業者、大学研究者らがメンバーとなっている。（昆野夏子）